

1,2 学年 単元名「平成 28 年度 第 2 回森里海連環講演会」(1 時間)

1 単元設定の理由

2014 年に国際自然連合よりニホンウナギが絶滅危惧種に指定された。ウナギのかば焼き発祥の地柳川の未来を考える。

講師：望岡 典隆先生（九州大学農学部准教授）

水産増殖学研究室，ニホンウナギ産卵場所特定のための航海に同行

演題：「ニホンウナギの産卵と回遊の謎 ～森・里・海をつなぐウナギを守るには～」

対象：第 1 学年 199 名，第 2 学年 198 名

日時：2 月 10 日(金) 7 時間目

2 単元目標

昭和 30 年代まで，柳川堀割にはたくさんのニホンウナギが生息していたらしいが，今はほとんどウナギの姿を見ることができなくなった。また，ニホンウナギは平成 25 年 2 月に環境省，翌年の 6 月に国際自然保護連合によって絶滅危惧 IB 類に指定された。今後ワシントン条約会議でニホンウナギが登録されると，ニホンウナギの輸入が制限され，ウナギのせいり蒸し発祥の地，柳川でウナギを食べることができなくなることも考えられる。現在では天然ウナギは高価で，柳川で消費されるウナギのほとんどは養殖と輸入に頼っていることを考えると，地域の食文化の維持も難しくなることが考えられる。江戸時代から柳川と共に歩んだ伝習館高校に入学した生徒が，地域の食文化や経済の一端を理解するためにも，江戸時代から続いた柳川とウナギの繋がりやウナギの回遊の謎(2007 年頃明らかになった)を理解させたい。また，昭和時代に水産学は，人工孵化による水産資源の回復を目指して研究が発展した。しかし，望岡先生は，自然界における魚類の生態を重視され，天然のウナギ目を中心とした魚類の生育環境やウナギの特殊な生態から，ウナギを絶滅させないために人間生活がウナギの新たな関係を紡ぎなおすことが必要である，という考えも指導していただけている。

3 単元の評価基準

生徒が作成した感想文

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
	望岡先生の紹介を聞く	・ 紹介：木庭 3 分 一斉
	望岡先生の講演を聞き，メモを取る	・ 望岡先生の講演 45 分 一斉
	質疑応答と本時のまとめをおこなう	・ 帰りのホームルームで感想文用紙を渡す。 ・ 提出は月曜日，担任まで。 ・ 担任は2部を選び木庭に提出。 ・ 木庭は望岡先生と日本財団に郵送する。
	連絡 ・ さらに深く話を聞きたい生徒は，掃除・終礼後，生物実験室へ	
外部連携 / 教材等 望岡典隆先生（九州大学大学院水産増殖学）		